

表 16. 中学生の性関係容認意識 (スコア)

			容認スコア	否認スコア
G0* 非介入	男子	事前	43.1	19.0
		事後	45.1	17.0
		差	<b>2.0</b>	<b>-2.0</b>
	女子	事前	36.9	25.0
		事後	36.7	24.0
		差	<b>-0.2</b>	<b>-1.0</b>
G1 フル モデル	男子	事前	27.9	22.5
		事後	26.3	31.6
		差	<b>-1.6</b>	<b>9.1</b>
	女子	事前	24.4	33.4
		事後	18.9	45.8
		差	<b>-5.6</b>	<b>12.5</b>
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	28.3	22.7
		事後	26.8	30.6
		差	<b>-1.5</b>	<b>8.0</b>
	女子	事前	25.8	28.2
		事後	20.9	43.3
		差	<b>-5.0</b>	<b>15.1</b>
G3 パワポ	男子	事前	27.7	22.0
		事後	31.9	35.0
		差	<b>4.2</b>	<b>13.0</b>
	女子	事前	29.8	31.0
		事後	22.2	49.1
		差	<b>-7.7</b>	<b>18.1</b>

\*容認スコア・否認スコアについては本文参照

表 17. 中学生の性関係容認意識 (スコア)

			容認スコア	否認スコア
G0* 非介入	男子	事前	43.1	19.0
		事後	45.1	17.0
		差	<b>2.0</b>	<b>-2.0</b>
	女子	事前	36.9	25.0
		事後	36.7	24.0
		差	<b>-0.2</b>	<b>-1.0</b>
G1+G2 介入	男子	事前	28.1	22.6
		事後	26.6	31.1
		差	<b>-1.5</b>	<b>8.5</b>
	女子	事前	24.9	30.9
		事後	19.8	44.5
		差	<b>-5.1</b>	<b>13.6</b>

\*容認スコア・否認スコアについては本文参照

## 2. 高校生になってから性関係を持つことに対する考え方(表 18)(表 19)

中学 3 年生に、「高校生になったとき、自分自身が性関係をもつことをどう思うか」を尋ねた。中学生での性関係同様、「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」、「どちらかと言えばよくないと思う」、「よくないと思う」「わからない」の 5 段階で中学 3 年生が高校生になってからの性関係の容認/否認の程度を調べた(表 18)(注 1: 性経験の意味を知っている知らないに関わらず、算出の分母は全中学生とした)(注 2: 2004 年度の調査では、高校生になってからの性関係についての質問が完全に異なるため、本項目には G0\*群は比較群として使用しなかった)。

次に、表 18 を使って、介入による生徒の性意識の変化を、容認的变化と否認的变化をそれぞれ別々にスコアを用いて評価した(容認スコア、否認スコア)。容認スコアは、「かまわない」を 100 点、「どちらかと言えばかまわない」を 50 点とし、「どちらかと言えばよくない」「よくない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に 0 点を与えて算出した。否認スコアは、逆に、「よくない」を 100 点、「どちらかと言えばよくない」を 50 点とし、「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に 0 点を与えて算出した。

表 19 に高校生になってからの性関係に対する意識スコアを示した。それによると、介入群での変化は、フルモデル群(G1)では、「容認スコア」は男子変化なし、女子 6 点減少、「否認スコア」は男子 6 点、女子 11 点の高い増加が観察された。パワポ/ビデオ教材使用群(G2)では、「容認スコア」は男子 1 点、女子 5 点減少し、「否認スコア」は男子 5 点、女子 9 点で G1 群同様大幅増加であった。ビデオなし/パワーポイント教材のみ使用群(G3)では、「容認スコア」は男子で 8 点上昇し、女子では 10 点の減少で、「否認スコア」は男子 7 点、女子 15 点の大きな減少が確認された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により高校生になってから性関係を持つことに対する容認意識が抑制されていることが示された。中学生に対する教育効果の特徴としては、男女を比べると、女子で顕著に抑制効果があり、また「容認スコア」と「否認スコア」の変化の比較から、「高校生になってから性関係をもつのはよくない」とする否認意識の増加に顕著な効果が観察された。ただし、予防教育の性関係抑制効果は、前述の中学生が性関係を持つことに対する教育効果よりは少ないものであった。

表 18. 高校 2 年生になったとき自分が性関係をもつことをどう思うか

			総数	かまわない		どちらかといえ ばかまわない		どちらかとい えばよくない		よくない		わからない	
				人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
G1 フル モデル	男子	事前	574	149	26.0	105	18.3	42	7.3	30	5.2	70	12.2
		事後	560	138	24.6	121	21.6	49	8.8	59	10.5	92	16.4
		差		-11	-1.4	16	3.3	7	1.5	29	5.3	22	4.2
	女子	事前	594	142	23.9	109	18.4	80	13.5	90	15.2	68	11.4
		事後	591	103	17.4	112	19.0	126	21.3	133	22.5	59	10.0
		差		-39	-6.5	3	0.6	46	7.8	43	7.3	-9	-1.4
G2 パ <sup>ラ</sup> ホ <sup>+</sup> ビ <sup>テ</sup> オ	男子	事前	570	155	27.2	115	20.2	41	7.2	34	6.0	64	11.2
		事後	569	147	25.8	124	21.8	62	10.9	53	9.3	82	14.4
		差		-8	-1.4	9	1.6	21	3.7	19	3.3	18	3.2
	女子	事前	568	135	23.8	111	19.5	60	10.6	80	14.1	70	12.3
		事後	560	109	19.5	107	19.1	85	15.2	117	20.9	78	13.9
		差		-26	-4.3	-4	-0.4	25	4.6	37	6.8	8	1.6
G3 パ <sup>ラ</sup> ホ <sup>*</sup>	男子	事前	148	48	32.4	20	13.5	11	7.4	7	4.7	19	12.8
		事後	143	46	32.2	44	30.8	13	9.1	15	10.5	13	9.1
		差		-2	-0.2	24	17.3	2	1.7	8	5.8	-6	-3.7
	女子	事前	158	48	30.4	27	17.1	19	12.0	19	12.0	18	11.4
		事後	158	28	17.7	34	21.5	37	23.4	34	21.5	14	8.9
		差		-20	-12.7	7	4.4	18	11.4	15	9.5	-4	-2.5

表 19. 高校生になったときの性関係容認意識スコア

			容認スコア	否認スコア
G1 フル モデル	男子	事前	35.2	8.9
		事後	35.4	14.9
		差	<b>0.3</b>	<b>6.0</b>
	女子	事前	33.1	22.0
		事後	26.9	33.2
		差	<b>-6.2</b>	<b>11.2</b>
G2 パ <sup>ラ</sup> ホ <sup>+</sup> ビ <sup>テ</sup> オ	男子	事前	37.3	9.6
		事後	36.7	14.8
		差	<b>-0.6</b>	<b>5.2</b>
	女子	事前	33.6	19.4
		事後	29.1	28.5
		差	<b>-4.5</b>	<b>9.1</b>
G3 パ <sup>ラ</sup> ホ <sup>*</sup>	男子	事前	39.2	8.4
		事後	47.6	15.1
		差	<b>8.5</b>	<b>6.7</b>
	女子	事前	39.0	18.0
		事後	28.5	33.2
		差	<b>-10.5</b>	<b>15.2</b>

\*容認スコア・否認スコアについては本文参照

## ◆高校2年生

### ■性関係に対する態度の変化

#### 高校生が性関係を持つことに対する考え方(表 20)(表 21)(表 22)

高校2年生に、「一般に高校2年生が性関係を持つことをどう思いますか」と尋ねた(注:但しG0\*群〔2004年度〕は「高校2年生がセックスすることをどう思いますか」という表現を用いた)。「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」、「どちらかと言えばよくないと思う」、「よくないと思う」「わからない」の5段階で高校生の性関係の容認/否認の程度を調べた(表 20)

次に、表 20 を使って、介入による生徒の性意識の変化を、容認的变化と否認的变化をそれぞれ別々にスコアを用いて評価した(容認スコア、否認スコア)。容認スコアは、「かまわない」を100点、「どちらかと言えばかまわない」を50点とし、「どちらかと言えばよくない」「よくない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に0点を与えて算出した。否認スコアは、逆に、「よくない」を100点、「どちらかと言えばよくない」を50点とし、「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」「わからない」「性関係の意味を知らない」に0点を与えて算出した。

表 21 に高校2年生の性関係に対する高校生の性意識スコアを示した。それによると、非介入群男子で容認スコアには変化がなく、否認スコアが1点減少していた。非介入群女子では、容認スコアは2点上昇し、否認スコアは2点減少しており、非介入群では男女とも、やや性意識の活発化の傾向が示された。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群(G1)では、「容認スコア」は男子4点、女子7点減少し、「否認スコア」は男子4点、女子6点の増加が観察された。パワポ/ビデオ教材使用群(G2)では、「容認スコア」は男子10点、女子8点と大幅に減少し、「否認スコア」も男子10点、女子6点の大幅増加であった。パワーポイント一部教材使用群(G3)では、「容認スコア」は男子で変化がなく、女子では4点の減少で、「否認スコア」は男女とも3~5点の減少が確認された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により高校生が性関係を持つことに対する高校生の容認意識が抑制されていることが示された。高校生に対する教育効果の特徴としては、男女を比べると、女子での抑制効果の方がやや大きい傾向が見られるが、中学生の場合のような顕著な男女差はなかった。また「容認スコア」と「否認スコア」の変化を比較すると、中学生の場合と異なり、高校生の性関係に対する容認意識・否認意識に両方に同じ程度影響している可能性があることが観察された。

男女で、G0\*群(非介入群:2004年度)の「容認スコア」「否認スコア」の値を、G1群+G2群(介入群)の値の分布とt検定で比較すると、「容認スコア」は男女とも有意ではなかったが(男子 $P=0.207$ 、女子 $P=0.184$ )、「否認スコア」では男女とも統計学的に有意であった(男子 $P=0.003$ 、女子 $P=0.039$ )(表 22)。

表 20. 一般に高校生が性関係をもつことをどう思うか

			かまわない	どちらかといえ ばかまわない		どちらかといえ ばよくない		よくない	わからない				
			総数	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)		
G0 非介入	男子	事前	391	209	53.5	71	18.2	40	10.2	30	7.7	39	10.0
		事後	380	206	54.2	63	16.6	36	9.5	26	6.8	45	11.8
		差		-3	0.7	-8	-1.6	-4	-0.7	-4	-0.9	6	1.8
	女子	事前	623	300	48.2	126	20.2	97	15.6	31	5.0	62	10.0
		事後	604	300	49.7	130	21.5	81	13.4	25	4.1	62	10.3
		差		0	1.5	4	1.3	-16	-2.2	-6	-0.9	0	0.3
G1 フル モデル	男子	事前	390	207	53.1	78	20.0	43	11.0	19	4.9	36	9.2
		事後	392	193	49.2	78	19.9	47	12.0	31	7.9	38	9.7
		差		-14	-3.9	0	-0.1	4	1.0	12	3.0	2	0.5
	女子	事前	538	239	44.4	155	28.8	66	12.3	28	5.2	41	7.6
		事後	545	216	39.6	135	24.8	89	16.3	51	9.4	40	7.3
		差		-23	-4.8	-20	-4.0	23	4.0	23	4.2	-1	-0.3
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	477	280	58.7	87	18.2	38	8.0	14	2.9	42	8.8
		事後	464	226	48.7	87	18.8	61	13.1	48	10.3	33	7.1
		差		-54	-10	0	0.6	23	5.1	34	7.4	-9	-1.7
	女子	事前	795	370	46.5	184	23.1	103	13.0	42	5.3	62	7.8
		事後	771	296	38.4	177	23.0	145	18.8	63	8.2	67	8.7
		差		-74	-8.1	-7	-0.1	42	5.8	21	2.9	5	0.9
G3 パワポ	男子	事前	793	411	51.8	151	19.0	90	11.3	31	3.9	94	11.9
		事後	771	404	52.4	135	17.5	86	11.2	53	6.9	79	10.2
		差		-7	0.6	-16	-1.5	-4	-0.1	22	3.0	-15	-1.7
	女子	事前	801	408	50.9	189	23.6	76	9.5	29	3.6	83	10.4
		事後	784	367	46.8	180	23.0	104	13.3	54	6.9	66	8.4
		差		-41	-4.1	-9	-0.6	28	3.8	25	3.3	-17	-2.0

表 21. 高校生の性関係に対する意識スコア (一般論)

			容認スコア	否認スコア
G0 非介入	男子	事前	62.6	12.8
		事後	62.5	11.6
		差	<b>-0.1</b>	<b>-1.3</b>
	女子	事前	58.3	12.8
		事後	60.5	10.8
		差	<b>2.2</b>	<b>-2.0</b>
G1 フル モデル	男子	事前	63.1	10.4
		事後	59.2	13.9
		差	<b>-4.0</b>	<b>3.5</b>
	女子	事前	58.8	11.4
		事後	52.0	17.6
		差	<b>-6.8</b>	<b>6.2</b>
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	67.8	6.9
		事後	58.1	16.9
		差	<b>-9.7</b>	<b>10.0</b>
	女子	事前	58.1	11.8
		事後	49.9	17.6
		差	<b>-8.2</b>	<b>5.8</b>
G3 パワポ	男子	事前	61.3	9.6
		事後	61.2	12.5
		差	<b>-0.1</b>	<b>3.0</b>
	女子	事前	62.7	8.4
		事後	58.3	13.6
		差	<b>-4.4</b>	<b>5.2</b>

\*容認スコア・否認スコアについては本文参照

表 22. 高校生の性関係に対する意識スコア（一般論）

		容認スコア		否認スコア	
G0 非介入	男子	事前	62.6	12.8	
		事後	62.5	11.6	
		差	-0.1	-1.3	
	女子	事前	58.3	12.8	
		事後	60.5	10.8	
		差	2.2	-2.0	
G1+G2 介入	男子	事前	65.7	8.5	
		事後	58.6	15.5	
		差	-7.1	7.0	
	女子	事前	58.4	11.7	
		事後	50.8	17.6	
		差	-7.6	5.9	

\*容認スコア・否認スコアについては本文参照

### (3) リスク認知の変化

#### ◆ 中学 3 年生

##### 1. 将来の性感染症感染リスク認知(表 23)(表 24)

性経験の有無に関わらず全ての中学 3 年生に、「将来、交際中に自分が性感染症に感染する可能性があると思うか？」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の STD 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合 (%) を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表 23)。まず、非介入 G0\*群では、『リスク認知群』の増加はわずかに男子 2%、女子 4%にとどまった。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、男子 19%、女子 22%の増加、パワポ/ビデオ教材使用群 (G2) では、男子 16%、女子 17%の増加と G1 群・G2 群ともに 20%近くの大きなリスク認知の増加が観察された。さらにビデオなし/パワーポイント教材のみ使用群 (G3) でも、男子 26%、女子 7%のリスク認知の向上が示された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、将来の自分自身の STD 感染に対するリスク認知が大幅に上昇することが示された。

男女で、G0\*群 (非介入群：2004 年度) の『リスク認知群』の値を、G1 群+G2 群 (介入群) の値の分布と *t* 検定で比較すると、男女とも統計学的に有意であった (男女とも： $P < 0.001$ ) (表 24)。

表 23. 自分 STD にかかる可能性があると思うか？

			かなりある+ありそうだ		まったくない		あまりない		ありそうだ		かなりある		わからない		
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
G0 非介入	男子	事前	1358	391	28.8	140	10.3	286	21.1	357	26.3	34	2.5	357	26.3
		事後	1350	420	31.1	115	8.5	269	19.9	361	26.7	59	4.4	326	24.1
		差		29	2.3	-25	-1.8	-17	-1.2	4	0.4	25	1.9	-31	-2.2
	女子	事前	1211	427	35.2	53	4.4	242	20.0	395	32.6	32	2.6	379	31.3
		事後	1193	470	39.4	51	4.3	216	18.1	422	35.4	48	4.0	292	24.5
		差		43	4.2	-2	-0.1	-26	-1.9	27	2.8	16	1.4	-87	-6.8
G1 フル モデル	男子	事前	574	100	17.4	101	17.6	142	24.7	94	16.4	6	1.0	208	36.2
		事後	560	202	36.0	40	7.1	158	28.2	180	32.1	22	3.9	156	27.9
		差		102	18.6	-61	-10.5	16	3.5	86	15.7	16	2.9	-52	-8.3
	女子	事前	594	120	20.2	80	13.5	163	27.4	110	18.5	10	1.7	205	34.5
		事後	591	246	41.7	32	5.4	136	23.0	212	35.9	34	5.8	159	26.9
		差		126	21.5	-48	-8.1	-27	-4.4	102	17.4	24	4.1	-46	-7.6
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	570	70	12.3	102	17.9	128	22.5	67	11.8	3	0.5	233	40.9
		事後	569	163	28.7	72	12.7	150	26.4	137	24.1	26	4.6	161	28.3
		差		93	16.4	-30	-5.2	22	3.9	70	12.3	23	4.1	-72	-12.6
	女子	事前	568	79	13.9	67	11.8	157	27.6	75	13.2	4	0.7	224	39.4
		事後	560	173	30.9	43	7.7	144	25.7	166	29.6	7	1.3	185	33.0
		差		94	17.0	-24	-4.1	-13	-1.9	91	16.4	3	0.6	-39	-6.4
G3 パワポ	男子	事前	148	19	12.9	31	20.9	39	26.4	18	12.2	1	0.7	49	33.1
		事後	143	56	39.2	16	11.2	34	23.8	50	35.0	6	4.2	34	23.8
		差		37	26.3	-15	-9.7	-5	-2.6	32	22.8	5	3.5	-15	-9.3
	女子	事前	158	37	23.5	25	15.8	32	20.3	35	22.2	2	1.3	55	34.8
		事後	158	48	30.4	13	8.2	49	31.0	42	26.6	6	3.8	43	27.2
		差		11	6.9	-12	-7.6	17	10.7	7	4.4	4	2.5	-12	-7.6

表 24. 自分 STD にかかる可能性があると思うか？

			かなりある+ありそうだ		
			人数	(%)	
G0* 非介入	男子	事前	1358	391	28.8
		事後	1350	420	31.1
		差		29	<b>2.3</b>
	女子	事前	1211	427	35.2
		事後	1193	470	39.4
		差		43	<b>4.2</b>
G1+G2 介入	男子	事前	1144	170	14.9
		事後	1129	365	32.3
		差		102	<b>18.6</b>
	女子	事前	1162	199	17.1
		事後	1151	419	36.4
		差		126	<b>21.5</b>

## 2. 将来の HIV 感染リスク認知(表 25)

性経験の有無に関わらず全ての中学 3 年生に、「将来、交際中に自分が HIV に感染する可能性があると思うか？」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の HIV 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合 (%) を、介入前後で、性別・介入群別に示した (表 25)。まず、非介入 G0\*群では、『リスク認知群』の増加はわずかに男子 3%、女子 5%にとどまった。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、男子 14%、女子 18%の増加、パワポ/ビデオ教材使用群 (G2) では、男子 13%、女子 12%の増加と G1 群・G2 群ともに 15%前後の大きなリスク認知の増加が観察された。さらにビデオなしパワーポイント教材のみ使用群 (G3) でも、男子 20%、女子 7%のリスク認知の向上が示された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、STD 感染のリスク認知向上よりはやや少ないが、将来の自分自身の HIV 感染に対するリスク認知も大幅に上昇することが明らかとなった。

表 25. 自分が将来 HIV にかかる可能性があると思うか？

			かなりある+ ありそうだ		まったくない		あまりない		ありそうだ		かなりある		わからない		
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
G0 非介入	男子	事前	1358	288	21.2	187	13.8	318	23.4	272	20.0	16	1.2	389	28.6
		事後	1350	328	24.3	155	11.5	289	21.4	285	21.1	43	3.2	367	27.2
		差		40	3.1	-32	-2.3	-29	-2.0	13	1.1	27	2.0	-22	-1.4
	女子	事前	1211	326	26.9	80	6.6	284	23.5	303	25.0	23	1.9	418	34.5
		事後	1193	376	31.5	65	5.4	254	21.3	341	28.6	35	2.9	360	30.2
		差		50	4.6	-15	-1.2	-30	-2.2	38	3.6	12	1.0	-58	-4.3
G1 フル モデル	男子	事前	574	80	13.9	126	22.0	127	22.1	77	13.4	3	0.5	217	37.8
		事後	560	156	27.9	60	10.7	166	29.6	142	25.4	14	2.5	174	31.1
		差		76	14.0	-66	-11.3	39	7.5	65	12.0	11	2.0	-43	-6.7
	女子	事前	594	103	17.4	88	14.8	170	28.6	92	15.5	11	1.9	207	34.8
		事後	591	206	34.9	44	7.4	147	24.9	186	31.5	20	3.4	175	29.6
		差		103	17.5	-44	-7.4	-23	-3.7	94	16.0	9	1.5	-32	-5.2
G2 パ <sup>ワ</sup> ポ <sup>+</sup> ビ <sup>ド</sup> オ	男子	事前	570	54	9.5	124	21.8	112	19.6	54	9.5	0	0.0	243	42.6
		事後	569	128	22.5	84	14.8	149	26.2	110	19.3	18	3.2	185	32.5
		差		74	13.0	-40	-7.0	37	6.6	56	9.8	18	3.2	-58	-10.1
	女子	事前	568	60	10.5	89	15.7	153	26.9	57	10.0	3	0.5	225	39.6
		事後	560	126	22.6	60	10.7	150	26.8	119	21.3	7	1.3	209	37.3
		差		66	12.1	-29	-5.0	-3	-0.1	62	11.3	4	0.8	-16	-2.3
G3 パ <sup>ワ</sup> ポ <sup>+</sup>	男子	事前	148	17	11.5	32	21.6	32	21.6	16	10.8	1	0.7	57	38.5
		事後	143	43	30.1	19	13.3	40	28.0	37	25.9	6	4.2	38	26.6
		差		26	18.6	-13	-8.3	8	6.4	21	15.1	5	3.5	-19	-11.9
	女子	事前	158	25	15.8	22	13.9	41	25.9	25	15.8	0	0.0	60	38.0
		事後	158	36	22.8	14	8.9	52	32.9	33	20.9	3	1.9	51	32.3
		差		11	7.0	-8	-5.0	11	7.0	8	5.1	3	1.9	-9	-5.7



◆高校2年生

1. 将来の性感染症感染リスク認知(表 26)(表 27)

高校2年生に、「将来、自分が性感染症に感染する可能性があると思うか?」を尋ねた。「まったくくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の5段階で、介入前後の自分自身の将来のSTD感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合(%)を、介入前後で、性別・介入群別に示した(表 26)。まず、非介入G0\*群では、男子は変化なし、女子4%のリスク認知の減少が観察された。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群(G1)では、男子2%、女子11%の増加、パワポ/ビデオ教材使用群(G2)では、男女とも15%の増加とG1男子を除きG1群・G2群ともに10~15%近くの大きなリスク認知の増加が観察された。さらにパワーポイント一部教材のみ使用群(G3)でも、男子9%、女子11%と10%前後のリスク認知の向上が示された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、将来の自分自身のSTD感染に対するリスク認知が大幅に上昇することが示された。

男女で、G0\*群(非介入群:2004年度)の『リスク認知群』の値を、G1群+G2群(介入群)の値の分布とt検定で比較すると、女子では統計学的に有意であったが、男子では有意ではなかった(女子 $P<0.001$ 、男子 $P=0.147$ )(表 27)。

表 26. 自分が将来 STD にかかる可能性があると思うか?

			かなりある+ ありそうだ		まったくくない		あまりない		ありそうだ		かなりある		わからない	
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
G0 非介入	男子	事前	131	33.5	44	11.3	102	26.1	111	28.4	20	5.1	114	29.2
		事後	129	33.9	32	8.4	108	28.4	111	29.2	18	4.7	108	28.4
		差	-2	<b>0.4</b>	-12	-2.9	6	2.3	0	0.8	-2	-0.4	-6	-0.8
	女子	事前	281	45.1	36	5.8	129	20.7	237	38.0	44	7.1	171	27.4
		事後	246	40.8	37	6.1	148	24.5	216	35.8	30	5.0	167	27.6
		差	-35	<b>-4.3</b>	1	0.3	19	3.8	-21	-2.2	-14	-2.1	-4	0.2
G1 フル モデル	男子	事前	98	25.1	67	17.2	121	31.0	87	22.3	11	2.8	97	24.9
		事後	107	27.3	51	13.0	128	32.7	93	23.7	14	3.6	103	26.3
		差	9	<b>2.2</b>	-16	-4.2	7	1.7	6	1.4	3	0.8	6	1.4
	女子	事前	92	17.1	123	22.9	161	29.9	84	15.6	8	1.5	151	28.1
		事後	152	27.9	58	10.6	173	31.7	130	23.9	22	4.0	155	28.4
		差	60	<b>10.8</b>	-65	-12.3	12	1.8	46	8.3	14	2.5	4	0.3
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	84	17.7	88	18.4	138	28.9	78	16.4	6	1.3	152	31.9
		事後	150	32.4	46	9.9	140	30.2	139	30.0	11	2.4	122	26.3
		差	66	<b>14.7</b>	-42	-8.5	2	1.3	61	13.6	5	1.1	-30	-5.6
	女子	事前	129	16.2	108	13.6	259	32.6	118	14.8	11	1.4	269	33.8
		事後	238	30.9	63	8.2	247	32.0	209	27.1	29	3.8	205	26.6
		差	109	<b>14.7</b>	-45	-5.4	-12	-0.6	91	12.3	18	2.4	-64	-7.2
G3 パワポ	男子	事前	141	17.8	164	20.7	205	25.9	123	15.5	18	2.3	271	34.2
		事後	206	26.7	121	15.7	196	25.4	168	21.8	38	4.9	244	31.6
		差	65	<b>8.9</b>	-43	-5.0	-9	-0.5	45	6.3	20	2.6	-27	-2.6
	女子	事前	128	16.0	122	15.2	234	29.2	117	14.6	11	1.4	300	37.5
		事後	215	27.4	74	9.4	229	29.2	196	25.0	19	2.4	255	32.5
		差	87	<b>11.4</b>	-48	-5.8	-5	0.0	79	10.4	8	1.0	-45	-5.0

表 27. 自分 STD にかかる可能性があると思うか？

		かなりある+ありそう 人数 (%)			
G0* 非介入	男子	事前	391	131	33.5
		事後	380	129	33.9
		差		-2	0.4
	女子	事前	623	281	45.1
		事後	604	246	40.8
		差		-35	-4.3
G1+G2 介入	男子	事前	867	182	21.0
		事後	856	257	30.0
		差		102	9.0
	女子	事前	1333	221	16.6
		事後	1316	390	29.6
		差		126	13.0

## 2. 将来の HIV 感染リスク認知(表 28)

高校 2 年生に、「将来、自分が HIV に感染する可能性があると思うか？」を尋ねた。「まったくないと思う」、「あまりないと思う」、「ありそうだと思う」、「かなりあると思う」、「わからない」の 5 段階で、介入前後の自分自身の将来の HIV 感染に対するリスク認知の変化を調べた。「ありそうだと思う」+「かなりあると思う」と答えた人を『リスク認知群』として合計割合 (%) を、介入前後で、性別・介入群別に示した (表 28)。まず、非介入 G0\* 群では、男子変化なし、女子 4% のリスク認知の減少が見られた。それに対し、介入群での変化は、フルモデル群 (G1) では、男子 1%、女子 7% の増加、パワポ/ビデオ教材使用群 (G2) では、男子 12%、女子 11% の増加と G1 男子をのぞき G1 群・G2 群ともに 10% 前後の大きなリスク認知の増加が観察された。さらにビデオなし/パワーポイント教材のみ使用群 (G3) でも、男女とも 8% のリスク認知の向上が示された。以上を、まとめると、本プロジェクトの予防教育により、STD 感染のリスク認知向上よりはやや少ないが、将来の自分自身の HIV 感染に対するリスク認知もかなり上昇することが明らかとなった。

表 28. 自分が将来 HIV にかかる可能性があると思うか？

		かなりある+ありそう 人数 (%)		まったくない		あまりない		ありそうだ		かなりある		わからない		
		人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
G0 非介入	男子	事前	104	26.6	50	12.8	116	29.7	87	22.3	17	4.3	121	30.9
		事後	102	26.8	38	10.0	122	32.1	91	23.9	11	2.9	115	30.3
		差		-2	0.2	-12	-2.8	6	2.4	4	1.6	-6	-1.4	-6
	女子	事前	213	34.2	44	7.1	162	26.0	186	29.9	27	4.3	197	31.6
		事後	183	30.3	44	7.3	176	29.1	164	27.2	19	3.1	195	32.3
		差		-30	-3.9	0	0.2	14	3.1	-22	-2.7	-8	-1.2	-2
G1 フル モデル	男子	事前	67	17.2	87	22.3	119	30.5	60	15.4	7	1.8	110	28.2
		事後	72	18.3	68	17.3	134	34.2	66	16.8	6	1.5	115	29.3
		差		5	1.1	-19	-5.0	15	3.7	6	1.4	-1	-0.3	5
	女子	事前	56	10.4	143	26.6	148	27.5	52	9.7	4	0.7	179	33.3
		事後	67	17.8	69	12.7	204	37.4	57	16.0	10	1.8	168	30.8
		差		11	7.4	-74	-13.9	56	9.9	5	6.3	6	1.1	-11
G2 パワポ+ ビデオ	男子	事前	56	11.7	106	22.2	133	27.9	51	10.7	5	1.0	167	35.0
		事後	112	24.1	58	12.5	151	32.5	106	22.8	6	1.3	137	29.5
		差		56	12.4	-48	-9.7	18	4.6	55	12.1	1	0.3	-30
	女子	事前	85	10.7	152	19.1	242	30.4	79	9.9	6	0.8	286	36.0
		事後	165	21.4	93	12.1	259	33.6	146	18.9	19	2.5	236	30.6
		差		80	10.7	-59	-7.0	17	3.2	67	9.0	13	1.7	-50
G3 パワポ	男子	事前	108	13.6	212	26.7	182	23.0	99	12.5	9	1.1	279	35.2
		事後	165	21.4	156	20.2	188	24.4	141	18.3	24	3.1	258	33.5
		差		57	7.8	-56	-6.5	6	1.4	42	5.8	15	2.0	-21
	女子	事前	76	9.5	167	20.8	217	27.1	73	9.1	3	0.4	324	40.4
		事後	140	17.9	115	14.7	229	29.2	129	16.5	11	1.4	289	36.9
		差		64	8.4	-52	-6.1	12	2.1	56	7.4	8	1.0	-35

#### (4) 性行動の変化－性経験率とコンドーム常用率

##### ◆中学3年生

##### 1. 性経験率 (表 29)

本介入により中学生の性行動が活発化したどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 29 に示した。ただし、性経験者の割合が少ないため、介入群はほぼ完全に教材を使用した G1 群+G2 群を介入群と定義した。それによると非介入群 G0\*群では、男子 3%、女子 1%の経験率の上昇が見られ、介入群 G1+G2 群でも男子 1%、女子 2%と、非介入群、介入群どちらも数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群との差異は認められず、2003 年度、2004 年度に続き、本プロジェクトの予防介入により中学生の性行動が活発化することがないことが再度確認された。

表 29. 中学生の性経験率

		総数		人数 (%)	
G0 非介入	男子	事前	1358	83	6.1
		事後	1350	125	9.3
		差		42	3.1
	女子	事前	1211	59	4.9
		事後	1193	74	6.2
		差		15	1.3
G1+G2 介入	男子	事前	1144	59	5.2
		事後	1129	75	6.6
		差		16	1.4
	女子	事前	1162	69	5.9
		事後	1151	88	7.6
		差		19	1.7

##### 2. コンドーム常用率 (表 30) (表 31)

介入により予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム常用率を比較した。過去 3 ヶ月間のコンドーム毎回使用率を介入前後で性別・介入群別に表 30 に示した。ただし、性経験者の割合が少ないため、介入群はほぼ完全に教材を使用した G1 群+G2 群を介入群と定義し、全性経験者中の割合で示した (表 31)。その結果、G0\* (非介入群) では、男子 8%、女子 10%と男女とも約 10%程度のかなりの使用率の低下が観察されたが、介入群 G1+G2 群では、男子は変化がなく、女子では 2%の減少であった。以上の結果より、予防教育を実施しないと常用率は低下していく傾向があるが、本プロジェクトの予防介入により、中学生では、非介入群ほどの大幅なコンドーム常用率減少は観察されなかったが、コンドーム常用率の上昇は見られなかった。ただし、WYSH 教育実施校に対する調査結果によると、今年度の中学校における予防教育実施日は、11 月後半に実施された学校が 33%、12 月中に実施された学校 26%と参加校の 6 割近い学校で、予防教育実施が 2 学期の遅い時期 (事後調査直前) に行われていた。このため、予防行動に対する質問「過去 3 ヶ月間のコンドーム使用状況」では、予防教育の効果を十分に測定できていない可能性があるため、本プロジェクトのコンドーム使用に対する効果評価には慎重な解釈が必要であると考えられる。なお、2006 年度は介入状況に適したコンドーム使用に関する質問項目の変更を検討する予定である。

表 30. 過去 3 ヶ月のコンドーム使用率

		性経験者	一度も使わ なかった		使わないこと が多かった		使ったり使わな かったり半々		使うほうが 多かった		毎回使った		
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
G0 非介入	男子	事前	83	23	27.7	5	6.0	12	14.5	9	10.8	30	36.1
		事後	125	46	36.8	7	5.6	18	14.4	13	10.4	35	28.0
		差		23	9.1	2	-0.4	6	-0.1	4	-0.4	5	-8.1
	女子	事前	59	5	8.5	7	11.9	9	15.3	9	15.3	24	40.7
		事後	74	9	12.2	9	12.2	13	17.6	14	18.9	23	31.1
		差		4	3.7	2	0.3	4	2.3	5	3.7	-1	-9.6
G1+G2 介入	男子	事前	59	15	25.4	5	8.5	6	10.2	11	18.6	18	30.5
		事後	75	20	26.7	11	14.7	8	10.7	9	12.0	23	30.7
		差		5	1.2	6	6.2	2	0.5	-2	-6.6	5	0.2
	女子	事前	69	15	21.7	10	14.5	9	13.0	5	7.2	24	34.8
		事後	88	18	20.5	7	8.0	12	13.6	12	13.6	29	33.0
		差		3	-1.3	-3	-6.5	3	0.6	7	6.4	5	-1.8

\*全性経験者中の割合

表 31. 過去 3 ヶ月のコンドーム使用率

		性経験者	毎回使った	
			人数	(%)
G0 非介入	男子	事前	83	30 36.1
		事後	125	35 28.0
		差		5 -8.1
	女子	事前	59	24 40.7
		事後	74	23 31.1
		差		-1 -9.6
G1+G2 介入	男子	事前	59	18 30.5
		事後	75	23 30.7
		差		5 0.2
	女子	事前	69	24 34.8
		事後	88	29 33.0
		差		5 -1.8

\*全性経験者中の割合

◆高校2年生

1. 性経験率 (表 32)

本介入により高校生の性行動が活発化したどうかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。性経験率を介入前後で性別・介入群別に表 32 に示した。ただし、性経験者の割合が少ないため、介入群はほぼ完全に教材を使用した G1+G2 群を介入群と定義した。それによると非介入群 G0\*群では、男子 4%、女子 2%の経験率の上昇が見られ、介入群 G1+G2 群でも男子 5%、女子 3%と、非介入群、介入群どちらも数%経験率が上昇したが、介入群と非介入群との差異は認められず、2003 年度、2004 年度に続き、本プロジェクトの予防介入により高校生の性行動が活発化することがないことが再度確認された。

表 32. 高校 2 年生の性経験率

			総数	人数	(%)
G0 非介入	男子	事前	391	66	16.9
		事後	380	80	21.1
		差		14	<b>4.2</b>
	女子	事前	623	156	25.0
		事後	604	165	27.3
		差		9	<b>2.3</b>
G1+G2 介入	男子	事前	867	160	18.5
		事後	856	197	23.0
		差		37	<b>4.5</b>
	女子	事前	1333	318	23.9
		事後	1316	354	26.9
		差		36	<b>3.0</b>

## 2. コンドーム常用率 (表 33) (表 34)

介入により予防行動が促進されたかどうかを調べるために、介入前後のコンドーム常用率を比較した。過去3ヶ月間のコンドーム毎回使用率を介入前後で性別・介入群別に表33に示した。ただし、性経験者の割合が少ないため、介入群はほぼ完全に教材を使用したG1群+G2群を介入群と定義し、全性経験者中の割合で示した(表34)。その結果、G0\* (非介入群)では、男女とも4%の常用率低下が観察されたが、介入群G1+G2群では、男女とも2%の常用率の増加が観察された。以上の結果より、予防教育を実施しないと、中学生同様、常用率は減少していく傾向を示すが、本プロジェクトの予防介入により、高校生では非介入群のようなコンドーム常用率減少は見られなかったが、コンドーム常用率の上昇は数%にとどまっていた。ただし、WYSH教育実施校に対する調査結果によると、今年度の高校における予防教育実施日は、11月後半に実施された学校が28%、12月中に実施された学校28%と参加校の半分以上の学校で、予防教育実施が2学期の遅い時期(事後調査直前)に行われていた。このため、予防行動に対する質問「過去3ヶ月間のコンドーム使用状況」では、予防教育の効果を十分に測定できていない可能性があるため、本プロジェクトのコンドーム使用に対する効果評価には慎重な解釈が必要であると考えられる。なお、2006年度は介入状況に適したコンドーム使用に関する質問項目の変更を検討する予定である。

表 33. 高校生の過去3ヶ月のコンドーム使用率

			一度も使わなかった		使わないことが多かった		使ったり使わなかったり半々		使うほうが多かった		毎回使った		
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
G0 非介入	男子	事前	66	7	10.6	5	7.6	5	7.6	8	12.1	20	30.3
		事後	80	7	8.8	7	8.8	7	8.8	12	15.0	21	26.3
		差		0	-1.9	2	1.2	2	1.2	4	2.9	1	-4.1
	女子	事前	156	12	7.7	16	10.3	23	14.7	19	12.2	44	28.2
		事後	165	20	12.1	18	10.9	15	9.1	20	12.1	40	24.2
		差		8	4.4	2	0.7	-8	-5.7	1	-0.1	-4	-4.0
G1+G2 介入	男子	事前	160	7	4.4	7	4.4	7	4.4	13	8.1	58	37.5
		事後	197	21	10.7	14	7.1	13	6.6	20	10.2	78	39.6
		差		14	6.3	7	2.7	6	2.2	7	2.1	20	2.1
	女子	事前	318	19	6.0	34	10.7	33	10.4	52	16.4	92	28.9
		事後	354	24	6.8	48	13.6	43	12.1	58	16.4	112	31.6
		差		5	0.8	14	2.9	10	1.7	6	0.0	20	2.7

\*全性経験者中の割合

表 34. 高校生の過去3ヶ月のコンドーム使用率

			毎回使った	
			人数	(%)
G0 非介入	男子	事前	66	30.3
		事後	80	26.3
		差	1	-4.1
	女子	事前	156	28.2
		事後	165	24.2
		差	-4	-4.0
G1+G2 介入	男子	事前	160	37.5
		事後	197	39.6
		差	20	2.1
	女子	事前	318	28.9
		事後	354	31.6
		差	20	2.7

\*全性経験者中の割合

## (5) WYSH 教育を実施した教師の感想（自由記載）

WYSH プロジェクトに参加し WYSH 教育を実施した教師に対し WYSH 教育を行って「良かった点」「困った点」を尋ねた（自由記載）。これらの自由記載の質的データの内容分析を行った。但し時間的な制約から、本報告書には初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。

### ◆中学 3 年生に対する WYSH 教育実施のコメント

2005 年度の WYSH プロジェクトへの参加中学校は 30 校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は 100%であった。

#### 1. 良かった点

##### 1-1 教師にとって良かった点

###### ① WYSH 教材・授業内容の教えやすさ（14 校）

代表例：子供たちに伝える方法に悩んでいる現場では、今回の WYSH 予防教育は確かな統計と分かりやすい説明でとても重宝しました。／分かりにくい表現や資料がなく、穏やかな雰囲気の中で授業をすすめることができた。／授業前のアンケートは、自校の生徒の実態の把握にとっても役立ち授業の組み立てに参考になった。／新しい情報（県ごと、日本そして世界の性感染症の推移など）各校の実態に応じた指導ができること（各県にあわせたパワーポイント）

###### ② 生徒との距離感接近（4 校）

代表例：一人ひとりの悩みや疑問について、話をする（教師と）ができるようになり、人としてのかかわりが今まで以上に深まったと思う。／自分のメッセージが伝えられたこと（普段は理科の授業で受精の学習をしているがここでは現象だけであり、今回は気持ちの面での話も付け加えられたことはよかった）

###### ③ 他の教員の理解向上（4 校）

代表例：職員全体に趣旨を説明したところ、協力的にバックアップしてもらえたこと。（生徒とのコミュニケーションを意図的につくる、授業前の検討や授業後のフォローに多くの教員関わった）／保健体育教師や養護教諭だけでなく、ほかの教師と性教育について話し合う場をもてたり、ほかの先生方にも関心を持ってもらえるようになった。

###### ④ 担当教師の意識向上（3 校）

代表例：このプログラムに参加することで、私達教職員の刺激になり今後も学び伝えていく責任を感じました。

##### 1-2 生徒にとって良かった点

###### ① 生徒にとって身近で具体的なデータの教材でわかりやすい（17 校）

代表例：子供たちをとりまく感染症、中絶の実態をはっきり実数をみせて知らせられてよかった。身近なこととしてとらえられていたと思う。／生徒たちにとって、具体的な提示であったため、興味・関心を高めることができた。／クラミジアや中絶が身近なところに迫っているということが、実感できる教材であった。／特定の相手とのセックスであっても、その人の過去や背景を考えさせることができ良かったと思う。／性に対して個人差が大きい、まだ意識が低い生徒に対しても意識付けになったと思う。

② 生徒が受け入れやすい授業構成(13校)

代表例：生徒の心に響いた内容でした（生徒の姿勢でわかりました）／高校生の男の子の性関係までは望んでいない理由を読んだときの「男の子ってそう思ってるんだ」「そういう人もいるんだ」と異性の違った意見を知ることができてよかったですと思う。／また普段はおとなしい生徒もグループワークなど楽しみながら行っていた。／知らないことを知ろうとするまじめな気持ちが伝わってきた。

③ 男女別授業の利点(3校)

代表例：男女別だったので生徒がリラックスして自分たちの問題を受け止めトークすることができた。

④ 障害児教育にも有効(2校)

代表例：パワーポイントが良くまとまっていた。聾の生徒にとって、視覚的な資料はとても有効である。／難聴の子供たちは、日常ではどうしても情報不足となってしまうのできっちり学校で性情報を学べてよかったですと思います。

## 2. 困った点

① 授業時間の確保が困難(7校)

代表例：実施時期等が限定されていたので、ほかの日程と重なり調整に苦労した。研修が8月末だったので、夏季休業中に計画を立てられなかった。／パワーポイントは情報量が多く、理解に時間のかかる生徒も一部あるため、1時間の授業では説明しきれないところがあった。／男女別ということで学年内で4時間の時間確保が少しきつかった。

② パワーポイントの操作に不慣れ(3校)

代表例：機器の取り扱いが不得手で、映像が出なかったり音がでなかったり苦労しました。試写の時はうまくいったのに本番でハプニングがありました、後日再視聴させました。

③ 生徒数の多さ(2校)

代表例：人数が多いため、一人ひとりに関わることができなかった。会場が少しせまかった。

④ グループワーク実施の困難(2校)

代表例：グループワークへの関心の差。男女別にしたことで、お互いに性差を感じたり考えたりさせたいと考えていたが、男子のグループがなかなか進まないことが多かった。／グループワークの進め方が難しかった。3回行い、3回目やっと自然に話をすすめることができた。

⑤ 授業継続上の体制づくり(2校)

代表例：中三でこの性教育プログラムを活かすためには一年時からの系統的な授業を組み立てる必要があると思う。全校的な取り組みがほしい。

⑥ その他の問題(5校)

代表例：絵、写真のところは反応があったが字だけのところの反応が弱い。補足がうまくできなかった。／自分にゆとりがなかった（たぶん知識があまりないので、授業案どおり教えよう教えようとあせりすぎていたかもしれない）／一人ひとりの性に対する考え方、意識のギャップやおかれている環境に差があるので、授業として一斉に行うことの難しさを感じた。また、意見や周囲からの目などを含め、個を大切にしたり尊重することに大変気をつかった。／ポスターを貼ったがあまり子供たちの印象に残っていないようだ。各クラス、トイレ、掲示板など目に付くところに貼ったつもりではあったが



## ◆高校 2 年生に対する WYSH 教育実施のコメント

2005 年度の WYSH プロジェクトへの参加高校は 26 校で、授業実施状況に関するアンケートの回答率は 100%であった。

### 1. 良かった点

#### 1-1 教師にとって良かった点

##### ① WYSH 教材・授業内容の教えやすさ (16 校)

代表例：授業をする側としても、パワーポイントで資料がまとめられているので、授業を行いやすかった。／パワーポイントやビデオを使用して、授業展開がスムーズに進めることができ、考えさせたり意識させたいポイントが明確に、生徒たちに伝えられた。特に、ビデオはクラミジア、中絶と個別にわかりやすく簡潔に（時間的にも）まとめてあり、ほかの授業でも通常のトータル的にまとめたビデオ等よりも使用しやすいと思った。／新しい情報が入っているので、昨年度と比較しながら実施できた。／プログラムとして、教材や手続きが定まっているため、どの教員でも一定以上のレベルで対応することができるため、継続的な実施が可能である。

##### ② 教師の意識・知識の向上 (11 校)

代表例：教職員の性意識が揺さぶられる体験になったと思う。／よりよい授業をしたいという教員の心に火をつけることができたと思う。／自分自身も HIV 感染、治療についての最新状況を勉強することができ、その一部ではあるが生徒、保護者に伝えることができて良かった。

##### ③ 他の教員・学校全体の連携強化 (5 校)

代表例：予防教育は「保健の授業でやればよい」から「担任がやってこそ生徒に伝わるものがある」に変わることができた。／保健体育の教員ではなく、クラス担任を中心とした教員が担当することができ、校外の講師に依頼するのではなく、教員自身が主体的に変わることができる。授業後の教員の話し合いでは、プログラム実施の内容を受けて、各教科でも性の問題を取り上げることができるのではないかといった感想も出された。

##### ④ 新たな発見 (6 校)

代表例：純愛を求めている生徒（特に女子）が多いことが分かった。／ほかの全国のいろんな学校と比較し、評価することができてよかった。／真剣に悩んでいるが相談できずにいた生徒が居ることが分かった。／公開授業として他校の先生方や教育委員会の方にも見ていただきましたが大きな反響がありました。

#### 1-2 生徒にとって良かった点

##### ① 生徒にとって身近で具体的なデータの教材でわかりやすい (21 校)

代表例：パワーポイントを使用したことによって、生徒たちがいつも以上に集中して授業をうけていた。／「性のネットワーク化」のパワーポイント図（絵）がとても生徒にわかりやすかった。／テンポよく分かりやすかったとの感想が多かったです。／エイズ以上にクラミジアの脅威を生徒たちが自分のことと認識できたのが良かったと思います。／・日本では、という広い視点ではなく〇〇県では、という各県の状況までデータがあったことが、生徒にはより身近に感じることでよかったと思う。

##### ② 知識だけでなく意識にも影響 (9 校)

代表例：生徒の感想からも、私が最も伝えたかった「自分を大切にすること」「相手への思いやり」が心に響いた様子がうかがえ良かったと思う。／特に女子生徒は自分の体は自分で守ろうとする意識が高まった。

③ 男女別授業の利点(1校)

代表例：男女を分けたので、異性を気にせず話せた（生徒の感想）

④ その他(1校)

代表例：廊下前に展示したメッセージカードやポスターにまったくのいたづらがなかった（本校にとっては驚異的なことである）。

**3. 困った点**

① 授業時間の確保が困難(8校)

代表例：パワーポイントとビデオでの講義が1時間では足りなかった。／今回は計画になかったものを、急遽入れた形になって、時間的に無理があった。来年からは年間計画に組み込みたい。／（授業）時間の確保に困った。

② 生徒の差異(性別・リスクレベル)による授業実施の困難(4校)

代表例：リスクが高いと思われる生徒が出席はしているものの授業に参加しようとしなかった。／女子クラスでは、生徒が主体的に授業に参加する姿勢がみられたが、男子クラスの一部の生徒の中には、女性が置かれている社会的・身体的状況に配慮できない軽はずみな言動がみられた。

③ 授業実施時期の問題(3校)

代表例：授業展開の中で、特設として行うしかなくカリキュラムの流れにうまく応じていないところがありました。アンケートの実施時期や授業の実施時期に苦心しました。

④ パワーポイントについての問題(2校)

代表例：パワーポイントの年次更新などを考えると、課題があるのかと思われる。

⑤ 他の教員の理解不足(2校)

代表例：性に対する固定観念が”若い教師”、”男性”ほど強く、準備段階でのディスカッションが難しい。

⑥ その他の問題(7校)

代表例：専門分野ではないので、深い話ができなかった。／研修会の場所が遠いので参加するのに苦労した。（出張費関係）／日頃授業という形で指導をしてないので負担を感じた。

## 1. 2005年度全国の中学生/高校生に対する WYSH プロジェクトの評価のまとめ

今回のプロジェクトによって、以下のような成績が得られた。

(非介入群[WYSH ポスターパンフの掲示配布のみ]と介入群[WYSH 教育を実施した群]との比較)

### 【中学3年生】

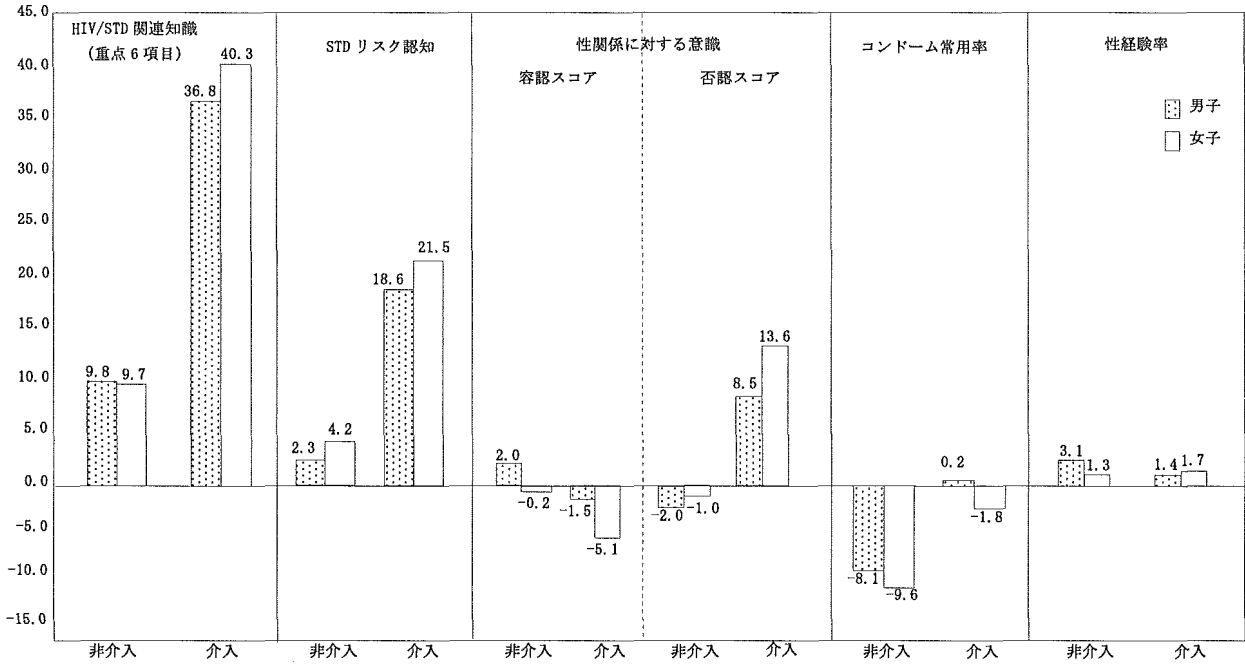
- ① **知識**：HIV/STD 関連知識は非介入群では男女とも約 10%の増加であったが、介入群では男女とも 知識が大幅に (約 40%) 上昇した。
- ② **性意識**：[中学生が性関係を持つことへの意識]は、非介入群では男女ともわずかに活発化傾向が見られたが、介入群では 大幅な抑制効果 (否認意識の 10%前後の増加) が観察され、特に女子での抑制効果が顕著であった。
- ③ **リスク認知**：「将来の自分の STD 感染リスク認知」は、非介入群では男女とも数%増加であったが、介入群では男女とも 20%前後の リスク認知の顕著な上昇が見られた。
- ④ **予防行動**：[予防行動 (コンドーム常用率)]は、非介入群では大幅に減少したが (約 10%)、本プロジェクト実施群では、男女とも変化がなかった (=減少しなかった)。
- ⑤ **性経験率**：本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

### 【高校2年生】

- ① **知識**：HIV/STD 関連知識は非介入群では男女とも 5%前後の微増であったが、介入群では男女とも 知識が大幅に (35%前後) 上昇した。
- ② **性意識**：[高校生が性関係を持つことへの意識]は、男女とも性関係の容認意識が約 7%抑制され、否認意識が約 6-7%増加し 顕著な抑制効果が示された。
- ③ **リスク認知**：「将来の自分の STD 感染リスク認知」は、非介入群ではほとんど変化なかったが、介入群では リスク認知が大幅に (10%前後) 上昇した。
- ④ **予防行動**：[予防行動 (コンドーム使用率)]は、非介入群では減少した (約 5%) が、本プロジェクト実施群では、コンドーム使用率がわずかに上昇した (約 2%)。
- ⑤ **性経験率**：本プロジェクトによって性行動が活発化することはなかった。

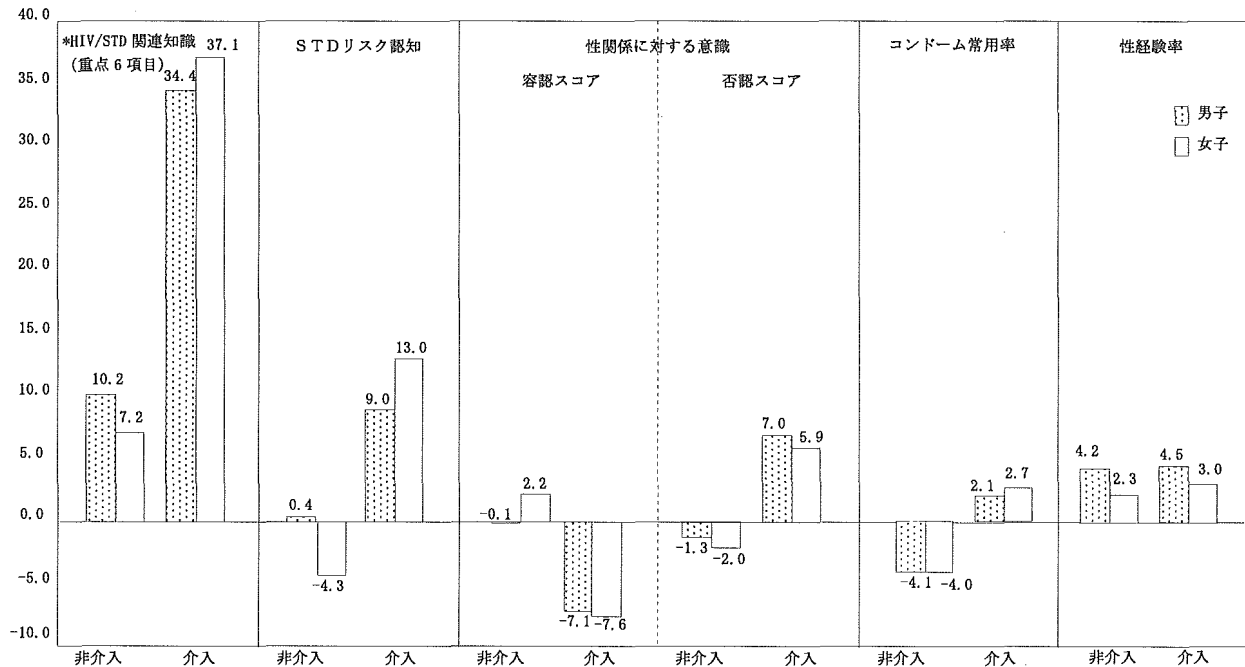
本プロジェクトで開発したモデル授業やその教材が、中学生・高校生の性行動を活発化させることなく、知識、性関係についての意識、リスク認知に顕著な介入 (教育) 効果を示すことが確認された。

予防介入のまとめ：中学3年生  
非介入群 VS 介入群



\*①クラミジアは性病、②STD/HIV 相互作用、③STD は無症状ありうる、④STD は不妊の原因、⑤STD は子宮癌の原因、⑥地域で10代の中絶増加の増加率の平均値

予防介入のまとめ：高校2年生  
非介入群 VS 介入群



\*①クラミジアは性病、②STD/HIV 相互作用、③STD は無症状ありうる、④STD は不妊の原因、⑤STD は子宮癌の原因、⑥地域で10代の中絶増加の増加率の平均値